

科学と社会との関わり

— 研究不正の具体事例と生物学の新たな潮流を通して考える —

毎日新聞社 科学環境部 記者
須田桃子 先生

事前課題 :

下記の【課題1】【課題2】のうちから一つ以上を選び、図書館などを利用して課題図書を読んだうえで、提示した各項目について考察してください。

課題一つについて、全体でA4用紙1~2枚になるようまとめてください。

【課題1】

『捏造の科学者 STAP細胞事件』（文芸春秋）を読み、次の4点についてまとめてください。本で紹介のない2014年11月半ば以降の出来事については、当時の報道や下記の公表資料を参照してください。

- ・ 理化学研究所が実施した検証実験の報告

http://www.riken.jp/pr/topics/2014/20141219_1/

- ・ 第二次調査委員会による調査結果の報告

http://www.riken.jp/pr/topics/2014/20141226_1/

- 1) STAP細胞の研究段階や論文発表時の問題点は何だったと思いますか。自身の考えを含めてまとめてください。
- 2) 不正疑惑の出た後の理化学研究所の一連の対応について、どう評価しますか。
- 3) 「科学者の説明責任」についてどう考えますか。論文の主要著者たちの主張や行動を踏まえてまとめてください。
- 4) 研究不正の起こりにくい研究環境とはどんな環境だと思いますか。また、研究不正に陥らないために、自分自身が注意していることや、今後、注意していきたいことは何ですか。

【課題2】

『合成生物学の衝撃』（文芸春秋）を読み、次の点についてまとめてください。

- 1) 「合成生物学とはどんな研究分野か」と友達や家族に聞かれたら、どのように説明しますか。自分の言葉でまとめてください（400字程度）。
- 2) 最も印象に残った研究について、理由を含めて答えてください。
- 3) 科学技術の進展は、恩恵だけではなく、それまでにない新たな倫理的・社会的課題をもたらします。合成生物学の提起する倫理的・社会的課題もさまざまありますが、その中で最も重要だと思う課題、あるいは興味を引かれた課題について、理由や自身の考えを含めてまとめてください。
- 4) 3) の課題について社会で議論し、合意形成を図るにはどんな道筋や枠組みが有効だと思いますか。また、そうした議論で科学者が果たすべき役割は何だと思いますか。

以上